

荒木山通信

「ご挨拶」

北房文化遺産保存会の活動について
北房文化遺産保存会 会長 畠田 正博



2023年8月
第18号
北房文化遺産
保存会

令和五年も早三分の一が過ぎようとしています。

二月から三月に掛けての荒木山西塚古墳発掘調査、四月末の荒木山通信発行、七月と八月の西の明日香村ガイド養成講座と計画していた事業も、役員・会員を始めとして多くの方々のご協力やご支援を頂いて着々と進んで来ました。まずもつてお礼申し上げます。

一月末の総会の役員改選で、久松秀雄氏の後を受け、会長の大役を仰せつかりました。深い識見と熱い思いで会を導いて来られた氏には到底及びませんが、奥田副会長を始めとする役員・会員の皆様と手を携え、会の目的である「文化遺産を活かしての地域振興」を目

指し頑張って行きたいと思ひます。

真庭市北房地域には、盆地を囲む山裾に二四〇個所を超す古墳があります。三世紀半ばの古墳時代前期から七世紀末の終末期まで首長墳が連綿と続きます。これらは、他地域ではあまり見られません。また、数多くの歴史的建造物などもあります。この北房の歴史的遺産を保全・活用した町づくりを目指した「西の明日香村構想」が北房町時代に策定されました。中でも古墳時代末期の定古墳群・大谷一号墳は国の指定史跡となり脚光を浴びました。しかし、北房地域のみならず真庭市内でも最も古いとされる荒木山の古墳は市の指定

以来七年、会では古墳の清掃や整備、顕彰活動・会員研修、機関紙の発行等の活動を行つてまいりました。

その間、市に古墳の調査を中心とした要望し、会員が古墳の非破壊調査などにも参加してきました。西の明日香村道しらべ事業として市（北房振興局）とタイアップして案内看板の設置なども行いました。西の明日香村道しらべ事業として市（北房振興局）とタイアップして案内看板の設置なども行いました。そして、活動を荒木山の古墳から北房地域に広げ、文化遺産の保存・活用に寄与し、次世代に継承しようと会の名称も令和四年度から「北房文化遺産保存会」と改めました。久松氏が築かれた礎のもと、この会は「過疎は終わった」と改めました。

そして、「過疎は終わった！？」中國山地から始まる新時代」と題した、みんなでつくる中國山地百年会議事務局長 森田一平氏

史跡とはなつていましたが、あまり知られておらず草木が生い茂った状態でした。「これではいけない。何かしたい」と久松秀雄氏が「荒木山の古墳を顕彰する会」を立ち上げられたのが平成二八年二月のことでした。

ります。皆様方のご支援やご協力をいただきながら取組んでいきたいと思います。宜しくお願ひ致します。

道しるべ整備事業についての発表

七月八日（土）、広島YMCA国際文化ホール（広島市中区）で中国地方地域づくり等助成事業報告会があ

り、私（畠田）と事務局の平城元氏の二人が参加しました。道しるべ整備事業での案内看板作成の助成をして頂いた中国建設弘済会の主催で、その助成を受けた三団体のうち選ばれた九団体が報告しました。

当会では、看板設置や助成申請事務に中心となつて取り組んだ平城氏が発表しました。コンパクトにまとめられた分かりやすいプレゼンでした。各団体一〇分

ずつの発表と報告会選考委員のコメント。発表後、参加者と選考委員による投票で一位から三位までの優秀賞が選ばれました。



【事業報告】② 西の明日香村・道しるべ整備事業

の地域づくり講演会の後、表彰式と講評がありました。講評では、「地域素材をどう活かしているか。持続性は、とといった観点で評価した」と述べられました。開票の結果、本会の発表は委員の評価は高かつたものの惜しくも五位。何れの発表もその地域の素材を活かし、地域の活性化に前向きに取り組もうとしたものでした。

（畠田 正博）

定北古墳三号陶棺刻字（その2）

三年ほど前の本紙第8号で、定北古墳の三号陶棺に刻まれた「記」という漢字についてあれこれ述べました。そして、最後に「それでも陶棺に文字を刻むのであれば、なぜ被葬者名かそれに関する文字を刻まなかつたのかと、その人間に文句を言いたいのは私だけではないだろう」と締めくくりました。



【三号陶棺（ふるさとセンター1階ロビーに展示）】

先日、刀剣銘文について、少し調べていたとき、埼玉県の稻荷山古墳から出土した鉄剣の銘文に関して、宮崎市定氏が興味深い説を発

※ 碓櫛…木棺の周囲を礫で包んだ埋葬施設
純金を埋め込む技法



稻荷山古墳は、五世紀後半の築造とされる前方後円墳で、一九六八年に後円部の礪櫛から金錯銘鉄劍、いわゆる稻荷山鉄劍が出土しました。十年後の一九七八年、鉄劍の保存処理中、実際に一一五文字もの金象嵌の銘文が発見されました。

辛亥の年七月、記す。ヲワケの臣。上祖、名はオホヒコ。其の児、（名は）タカリのスクネ。其の児、名は（中略）其の児、名はカサヒヨ。其の児、名はヲワケの臣。世々、杖刀人の首と為り、奉事し來り今に至る。ワカタケルの大王の寺、シキの宮に在る時、吾、天下を左治し、此の百練の利刀を作らしめ、吾が奉事の根源を記す也。

これに対して、宮崎氏は、何か所か、異なる読み方が可能ではないかと述べていますが、ここでは「記」

宮崎市定氏は、平成七年に亡くなられましたが、文化功労者表彰を受けた、日本における東洋史研究の牽引者でした。特に中国に関する研究は漢代から清代に至るまでの幅広い時代に及んでいます。いわば漢字・漢文の泰斗です。

※ 泰斗…その道の大家、大学者

辛亥年七月中記乎獲居臣上祖名意富比塊其児多加利足尼其児名（中略）其児名加差披余其児名乎獲居臣世々為杖刀人首奉事來至今獲加多支齒大王寺在斯鬼宮時吾左治天下令作此百練利刀記吾奉事根原也

「まず、ここを「記す」とすると、文末の「吾が奉事の根原を記す也。」と「記す」が重複する。この文章が純粹の漢文の語法で書かれたものであれば、同一文字の重複は、極めて拙いことになる。漢文なら一字も

二つ目は、この銘文は「史書」の列伝の体にしたがって書かれていると思われる。この場合、最初に本人の姓と名を示すはずである。この姓は最初に一度出るだけで、その後は再び現れることがない。漢文では無用の重複を嫌い、文章を一字でも短く書こうとするものである」と説明します。

さらに、「記と紀は同意同義で相つうじて用いられる。當時、音声だけで伝わったことを考えれば、何の漢字

表していたことを知りました。

この銘文の解説作業の結果、獲加多支齒大王（ワカタケル大王）という文字が確認され、雄略天皇と比定されました。

冒頭の「辛亥年七月中記乎獲居臣」は、「辛亥年七月中記」で切るのではなく、「辛亥年七月中」で切ります。そして、「記」を氏族名と考え、「辛亥の年七月中、キノヲワケの臣」と読みます。その理由を二つ挙げています。

辛亥の年七月の中

にのみ取り上げます。

つていなかつたであろう。

紀氏の氏族名を記の字で表すことも有りうること」と述べています。

ただし、問題は氏族名が

はたして辛亥年（定説では四七一年）頃に一般化して

いたか否かですが、これについては、「日本書紀」の

雄略朝には紀ノ小弓宿禰

紀ノ大磐宿禰父子のこと

記されている」としていま

す。

「記」は氏族名ではないか、この説に大変驚きました。

前回、「なぜ被葬者名かそれ

に関係する文字を刻まなかつたのか」と文句を言ったのは、実は一九九五年に行された定北古墳発掘調査

報告書の陶棺刻字「記」に

ついての考察部分を読んでいたからです。それには、

次のように書かれていました。

「記」はキの乙類仮名

表記文字であり、その点で

は「木」ともあるいは「紀」

とも同じであるから、「記」

でもつて「紀」を表現したことはできないことはなく、そうとすれば人名との関係も浮上してきて、従来言われてきたような吉備と紀氏の関係をうかがわせる興味深い資料になるが、「紀」氏を「記」氏と書く例は今日知られる史料には一例もなく、「記」人名説は成立の見込みはまずないと考えるべきであろう。それならば「記」にはどのような意味が考えられるであろうか。・・・3号陶棺は、作成時において、墓室における前後が想定されていたのではなかろうか。「記」が記号的な文字として使用されたとする推論が成立するとして、ある方向性をもつて文字を書き付ける理由は陶棺の方向が意識されたいたとする以外に説明がつきにくいように思われるのである。

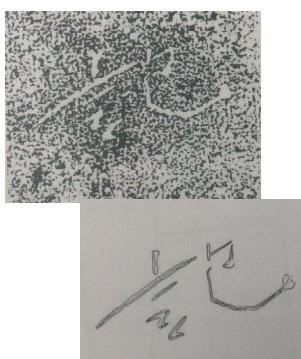
われてきたような吉備と紀氏の関係」があるなら、なにおさらのこと残念だという思いになり、あのような文句を書いたのです。ところが、偶然にも宮崎氏の稻荷山鉄劍銘文に関する説を知ることとなり、そこに「記」を「紀氏」と読むことができるのではないか、といいう説が展開されていたのですから驚いたのは当然です。

ら、あらゆる可能性を考慮しておくことは将来どんな大発見に繋がるきっかけにならぬとも限らない。現今の段階では、すべてが仮説ではつきり定まったものは何一つとしてないからだ。「何月中」で切れて、記という字のない例の方がはるかに多いのだ。学問はただ純学問的にのみ、その成果の当否を問うべきである。派閥の合意が研究の出発点となれば、それは学問の自由を自ら放棄することを意味する云々」と。一部、厳しい表現もありますが、全体として、学問に対する真摯に取り組む姿勢を感じとれる言説だと思います。

一英賀廢寺の建立と その背景

五三八年の仏教伝来から六四五年の大化の革新まで約一〇〇年間に創建された寺院は、四十六箇寺に過ぎない。多くが王家と崇仏派氏族の創建で畿内にあるその中に、吉備南部に大化の革新以前の寺院址が四箇寺ある。岡山市の賞田廃寺（上道氏）・大崎廃寺（不明）、総社市の秦原廃寺（秦氏）、倉敷市真備町の箭田廃寺（下道氏一族の吉備氏の各氏寺である。その後、大化の革新から七一〇年平城京遷都までに

創建された寺院は約五〇〇箇寺に上るが、その約七割強が六七二年の壬申の乱以降とされる。天武天皇政権が、教理を持つ仏教の「仁王般若波羅密經」など護国經典を読經させ、「鎮護國家」を目的に国家宗教として中央集権国家の機構に組み入れたためである。詔では、詔に組み入り寺院建立の推進と僧尼認可の見返りとして、諸寺へ食封を与える僧尼は課税免除とした。これにより寺院建立は地方へと加速した。また、運搬脚夫・役民の往還や窮民救済施設として、主要道路の交通行政機能を担う。



【陶棺の身に刻まれた「記」の文字】



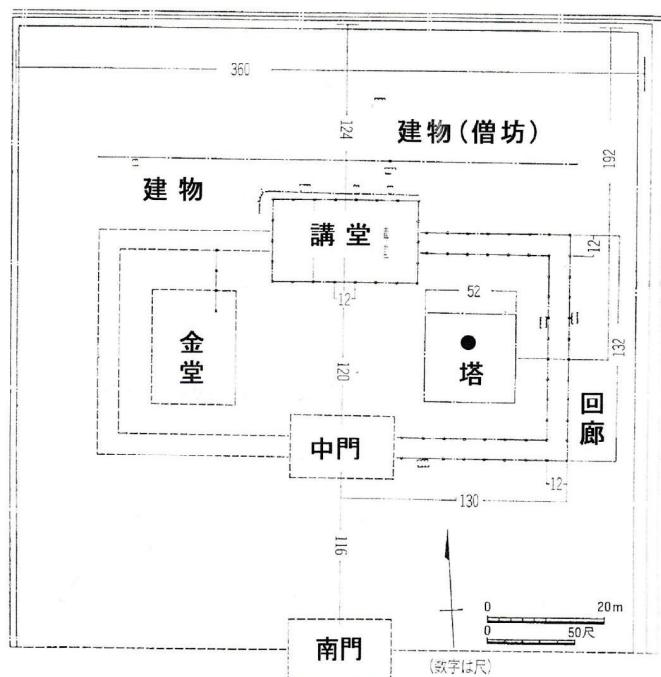
【陶棺の蓋に刻まれた「記」の文字】

都までの創建とされる岡山県内の寺院は、三十一箇寺ある。美作国は播磨の渡来系氏族の影響を受けた寺院が多くあり、美作道（姫路から津山）の要所と出雲・因幡・伯耆への街道沿いにある。備前国と備中國の寺院は古代山陽道沿いにあり、中央政権と繋がりの濃い氏が多い。英賀廃寺だけが備中國北部にあり首長級の氏寺とされている。しかし、官寺の可能性も否めない。

英賀廃寺の伽藍配置は東に塔・西に金堂、これらを北に講堂・南に中門を中軸上に回廊で繋ぐ。講堂北側に僧坊と、これらの伽藍を南門からの堀がほぼ一町（約一〇八m）四方で囲む。軒丸瓦には備中國独自の備中式瓦を使用している。また塔は、基壇の大きさから当時としては珍しい五重塔と推定され、さからく。



【英賀廃寺軒丸瓦】



【英賀廃寺伽藍推定図】(北房町史の図を一部改変)

創建が六七五年前後とされており、石川王が吉備を統轄する吉備大宰として赴任していた時期と重なる。律令国家の完成と唐・新

ささらに、五重塔を持つ一町四方の英賀廃寺の建設には莫大な費用と造寺集団が必要で、英賀の首長単独で建立できただろうか。同規模の寺院建立の総費用は、現在の価格で約一〇〇億円とも言われている。

吉備の英賀廃寺も郡衙といわれる遺構の近隣である。いわゆる「吉備のセント」である。

吉備の英賀廃寺も郡衙といわれる遺構の近隣である。いわゆる「吉備のセント」である。

・周防・伊予・吉備・坂東・總領が管轄した地域（筑紫・大宰・國で十五箇寺あり、大宰・

れている。

伽藍配置型式は現在、金

堂が南北に長く、入口が東

面する「観世音寺式」とさ

れる説が有力である。

観世音寺式伽藍は現在全

ての説が有力である。

伽藍配置型式は現在、金

堂が南北に長く、入口が東

面する「観世音寺式」とさ

れる説が有力である。

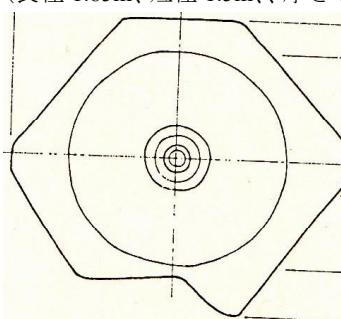
ささらに、五重塔を持つ一町四方の英賀廃寺の建設には莫大な費用と造寺集団が必要で、英賀の首長単独で建立できただろうか。同規模の寺院建立の総費用は、現在の価格で約一〇〇億円とも言われている。

ささらに、五重塔を持つ一町四方の英賀廃寺の建設には莫大な費用と造寺集団が必要で、英賀の首長単独で建立できただろうか。同規模の寺院建立の総費用は、現在の価格で約一〇〇億円とも言われている。



(昭和14年写) 現在は京都に

(長径 1.85m、短径 1.5m、厚さ 1m)



【基礎石略測図】



【英賀廃寺の看板】

* ぶどう畑の奥に塔の址に建つてある「大雄山円福寺」の石碑が見える。

古代の夢を語ろう。
古墳に关心のある人、皆来たれ！

会員募集中

私たちと一緒に
北房の文化遺産を守り、
その素晴らしさを知らせ
次世代に伝えて
いきませんか！

(三輪能章)

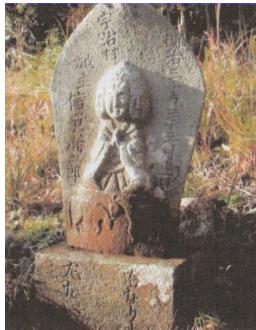
「備中とと道」の紹介（その5）

備中とと道推進協議会 顧問 森山上志

後谷集落を過ぎ、前方に宇治の町が見えかけると、右側に牛馬供養碑がある。

きれいな仏像が彫刻してあり、その下に牛と馬の姿が浮き彫りされている。次の刻字もある。

- ・右なりわ
- 左た□（地元の名前）
- 明治三十九年建立（一九〇六年）



元仲田邸

宇治の町に入り、ひとときわ目に着くのが「元仲田邸」

である。江戸期の庄屋の屋敷であるが、今は

酒蔵を改修して宿泊研修施設「備中宇治彩りの山里」として活用されている。



では急坂を上って延命寺の脇を通って、吹屋の街までの山道（約5km）を重い魚籠を担いで運ばなければならぬ。

今後の研究が期待されてい

* km

備中とと道について、

宇治地区まちづくり推進協議会が説明板を建てて

いる。

その尾根道は標高五一九mの高地を縦断する所もある。



【石田五輪塔】

その急坂に沿って小さな石仏、牛馬供養碑等が祀られている。さらに無数の五輪塔が据えられている所もあり、さながら仏教の修行の地を登っているような感覚を覚える。

天秤棒で重い魚籠を担いでいた魚仲仕たちは、どのような思いで登っていたのだろうか。



【無数の白色五輪塔群】

ぶどう畑の脇に屋根をトタン巻きした辻堂がある。直近には地神も祀られている。急坂を越えて来た通行人はほとと休みしたことである。

宇治の町が見えかけると、右側に牛馬供養碑がある。きれいな仏像が彫刻してあり、その下に牛と馬の姿が浮き彫りされている。次の刻字もある。

- ・右なりわ
- 左た□（地元の名前）
- 明治三十九年建立（一九〇六年）



ここまで来れば吹屋は近い。しかし、魚仲仕にとつては、精進料理で有名な延命寺に到着。曹洞宗の寺院で永

正二年（一五〇五）の開基と伝えられている。当初は密院であつたが廃絶し、福知山城主・朽木八郎岩国公によつて再建された。



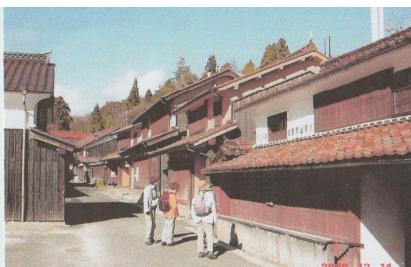
【延命寺】

元禄年間に荒廃した銅山を再興した大阪の豪商「泉屋」（後の住友）が梵鐘を寄進している。

境内には「享保十五年戊申（一七三〇）七月 念仏講中 下谷白石大深」と銘のある手水石が遺されている。大深は現在は廢れているが、「大深千軒」と云われ吹屋銅山の発祥の地とされている。

新見江 四里半
・明治二十三年三月建立
(一八九〇年)
とと道は、この道標を過ぎて「大塚屋敷跡」の標柱の前を吹屋の町並みへ向かう。

【吹屋の町並み】



吹屋は「吹屋ふるさと村」に早くから指定され区」に早くから指定されいたが、令和三年には『日本遺産』に指定された。

吹屋の町並み
【吹屋の町並み】
吹屋の町中へ左の写真の
ような往時を物語る証拠物
もある。

その上東城往来や吹屋往来から牛馬により集散された物資の集散地としても重要な拠点でもあった。

商家が軒を連ねていた。
・ 東城往来 → 高瀬舟で成羽
湊へ運ばれた物資
吹屋の町中へ左の写真の
ような往時を物語る証拠物
もある。



【ベンガラを扱った商家】

山神社（本山神社）
現在、資料館になつてゐる旧吹屋町役場の近くに銅山祭神の本山神社がある。明治六年（一八七三）に銅山の經營を引き継いだ三菱の社紋が、鳥居の額や玉垣にも刻まれている。これこそ吹屋銅山の歴史を今に伝える貴重な史跡である。



【山神社（本山神社）】

運ばれてきた鮮魚の行き先
運ばれてきた鮮魚の行き先
本稿で取り上げた宇治
吹屋の「とと道」は、今後
は通行不可となり、迂回路
(平成のとと道)を通る事
になる。理由は次の通り
ある。

・ 貴重な史跡が存在する。
・ 案内人無しでは危険。
・ 環境保護が必要な古道。

ル岡山の理事さんから談話をいただいた。お二人の要旨は次の通りである。

※『新見・高梁・真庭の歴史』（郷土出版社）に掲載されている。

○ 吹屋の魚問屋（確實に存在していた）を経て、特定の旦那衆を通して特定の旅館で、當時最も羽振りの良かつたベンガラ関係の旦那衆を通して特定の消費者に渡つていた。

○ 高価な鮮魚であり、しかも少量なので銅山労働者の口には入らなかつたと思える。

頭椎大刀の姿 一 土井一號 撰

令和五年四月二十四日

戸村 彰孝



A【頭椎大刀（土井二号墳出土）】

目指すは、中津井の土井一
号墳から出土した頭椎大刀
の実物と対面することであ
つた。（レプリカは北房ふ
るさとセンターにある。）
大谷古墳出土の双龍環頭
大刀に比べると知名度は低
いが、日本の古代国家が成
立する前夜の地方豪族の動
きを反映している点で、土
井二号墳の頭椎大刀の存在
は歴史的価値が高いと考え
たからである。

センターの和田剛さんの
説明を受けながらカメラを
向けたのが**A**の写真である。
目の前に美しく鮮やかな姿
に復元された大刀は、古代
の剣というよりも優雅な蕨
手紋に彩られた現代の美術
工芸品という印象を受けた。

発掘当時の様子は一九七九年三月に県教委が上梓した「岡山県文化財発掘調査報告書(29)土井2号古墳」に詳しい。要約すると、
〔-〕頭椎大刀の形状と馬具柄頭は半分欠損、畦目あり、懸通孔と鷗目金具があり、懸通孔と鷗目金具が残る。柄間に打込みの波状文で囲んだ蕨手文が施され、中心に目釘穴あり
鞘金具は五種類残る。刀身は腐食化著しく原型どめず先端部一部残り平

(二)の頭椎大刀の分布について、岡山大学名誉教授の新納泉氏の「装飾付大刀分布の歴史的背景」という論考が注目される。



B 【刀に手を
つがえる武人】
(上芝古墳出土)

頭椎大刀は全国で百ヶ所出土。東日本に八〇%集中。東国は五世紀以降、名代多し。中央皇族・豪族の舍人の供給源。舍人には東国以外の地方豪族の子弟も存在。土井二号墳の主もその可能性あり。

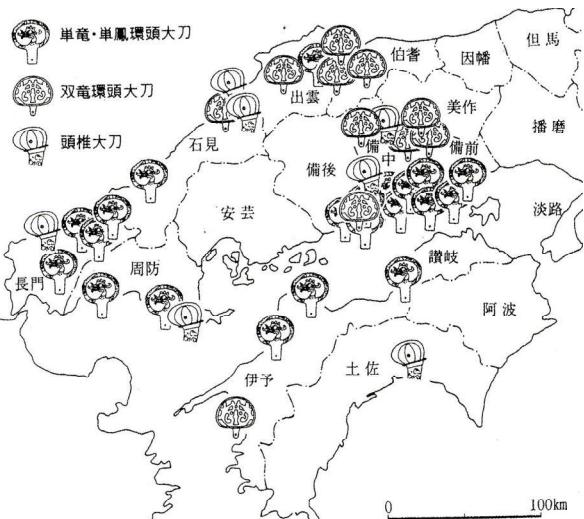


図1【中国四国地方における
三種の大刀の分布】



図2【頭椎大刀の分布】

クが拮抗する状況にあつたと分析している。

ここで取り上げた写真Bは、多くの舍人供給地域とされる東国、群馬県高崎市の「かみつけの里博物館」が収蔵している武人のハニワである。甲冑に身を固め大刀に手をかけた武人の姿から私は土井二号墳の主の姿を連想するのである。土井二号墳は六世紀ごろのものと推定される。六世紀の吉備のクニは五世紀の榮光を失つてヤマト王権にじわじわと侵略された。白猪の屯倉の設置がその証であろう。英賀の中津井の豪族が中央に直結しても不思議ではなかろう。それに、この地域は弥生・古墳時代の初期から谷尻遺跡の出土品にミヤコの土器類が多く認められるなど特異な伝統の持主なのである。

ここで再び頭椎大刀の潮流について少し述べることを許していただきたい。古代の装飾大刀の多くは韓半島に源をもつといわれるが、頭椎大刀の原型はヤマト古代にあるという。過年催された宮崎県博物館の「六世纪の日韓金銅製品—霸者愛した煌めき展」で韓国考古学者の朴敬道氏は、

「頭椎大刀の原型は半島には認められない。倭国独自の系譜であろう」と指摘している。

七一二年の撰上と伝えられる古事記の天孫降臨の條に『天忍日命、天津久米命が鞆を負い、頭椎大刀を佩きニニギノ命の警護にあたつた。』とある。荒唐無稽の神話ではなく、歴史上の事実を反映した文と私はみたい。

七一二年の撰上と伝えられた天津久米命が天忍日命の警護にあたつた。』とある。荒唐無稽の神話ではなく、歴史上の事実を反映した文と私はみたい。

当日は、その場での出土品は無かつたのですが、トレンチ作業やふるい掛け作業は「何が出てくるかな?」と期待し、雨が降つても、あつという間に時間が過ぎ楽しかったです。

もう一つは、保存会の方の丁寧で親切な案内は、初めてする体験の緊張をほぐしてくれて、作業班で一緒になつた人たちとの交流も和気あいあいとでき、次回もまた参加したいと思わせてくださいました。新しい体験と楽しい出会いをありがとうございました。

この秋、一一月末から発掘調査(二年次)が始まります。(非破壊の地中探査は一〇月に)それに向けての官(北房振興局・市教委)学(同志社大学)民(北房文化遺産保存会)の三者によるコンソーシアム連絡会が七月一四日(金)に持たれました。実施内容や調査日程等について話し合いました。

一般的人も作業に参加できる調査記事が新聞に載つたのを見て、心弾み思わず申し込みました。

当日は、その場での出土品は無かつたのですが、トレンチ作業やふるい掛け作業は「何が出てくるかな?」と期待し、雨が降つても、あつという間に時間が過ぎ樂しかったです。

もう一つは、保存会の方の丁寧で親切な案内は、初めてする体験の緊張をほぐしてくれて、作業班で一緒になつた人たちとの交流も和気あいあいとでき、次回もまた参加したいと思わせてくださいました。新しい体験と楽しい出会いをありがとうございました。

この秋、一一月末から発掘調査(二年次)が始まります。(非破壊の地中探査は一〇月に)それに向けての官(北房振興局・市教委)学(同志社大学)民(北房文化遺産保存会)の三者によるコンソーシアム連絡会が七月一四日(金)に持たれました。実施内容や調査日程等について話し合いました。

ガイド養成講座の開催

いよいよ始まる
平成五年度の西塚古墳
発掘に向けて

ガイド養成講座の開催

いよいよ始まる
平成五年度の西塚古墳
発掘に向けて



荒木山西塚古墳
発掘調査
岡山市
斎藤 真理
参加者から



私は、今回発掘調査に参加させて頂き嬉しく思つて加えています。
私は、今回発掘調査に参 加させて頂き嬉しく思つて います。

西の明日香村ガイド養成講座を七・八月と二回に分けて開催しました。講師は、テキストを中心となつて作成した当会の平城元氏。プレゼンで、図や写真を提示しながら北房の文化遺産(古墳を中心)について説明しました。

参加者のアンケートから

・プレゼンでの説明、写真や図が多く、またカラーで分かりやすかった。
・知識の少ない私には少し難しかった。テキストを読んで勉強したい。
・古墳などの知識がなくて難しかった。テキストを読んでも楽しく聞けた。
・北房には大きな古墳がいっぱいあるのですね、



以後、更に細かく詰めていくために何回か連絡会を持つ予定です。

皆様方のご理解・ご支援をよろしくお願ひ致します。